

伊勢湾貧酸素情報（第 5 報）

三重県水産研究所 鈴鹿水産研究室

伊勢湾の底層の酸素量はほぼ回復しているが、一部鈴鹿市沿岸域で 2 ppm以下の貧酸素水塊が形成されていた。

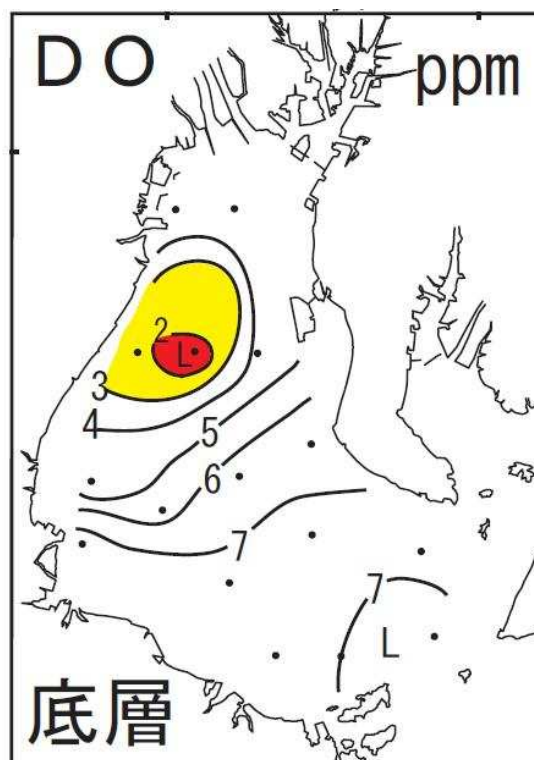
1 1 月 1 1 日の調査結果

11 月 11 日の調査船「あさま」の定線観測によると、水温は表層で 16.8～19.1℃、10m で 17.2～20.4℃、底層で 17.6～21.8℃の範囲にあり、表層では平年並みからやや高め、10m では平年並み、底層では平年並みからやや高めとなっていた。

塩分は表層で 28.22～32.31、10m で 31.10～32.44、底層で 31.29～33.44 の範囲にあり、表層では平年並み、10m では平年並みからやや低め、底層では平年並みとなっていた。

DO（溶存酸素量）は表層で 6.9～10.1ppm、10m で 4.7～8.0ppm、底層で 1.4～7.8ppm の範囲にあり、表層では平年並みからやや高め、10m では平年並みからやや低め、底層では鈴鹿市沿岸域で 2ppm 以下と貧酸素水塊が形成されていたが、それ以外は平年並みであった。

貧酸素水塊は 10 月 21 日の観測時に比べかなり縮小していて、水温や塩分の状況から、これから貧酸素水塊は徐々に解消していくと判断される。



底層貧酸素水塊分布